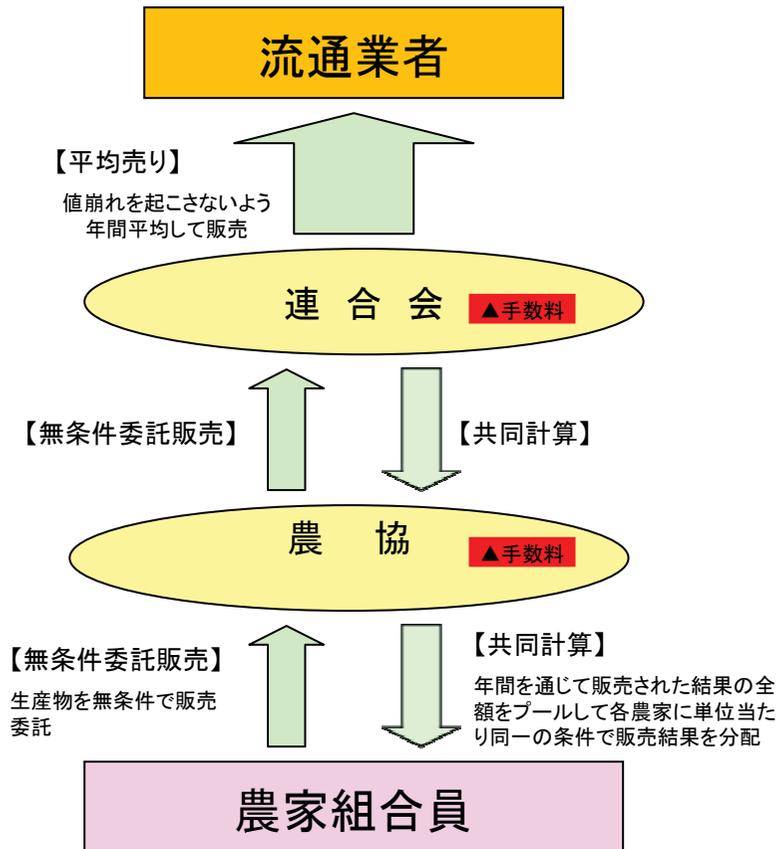


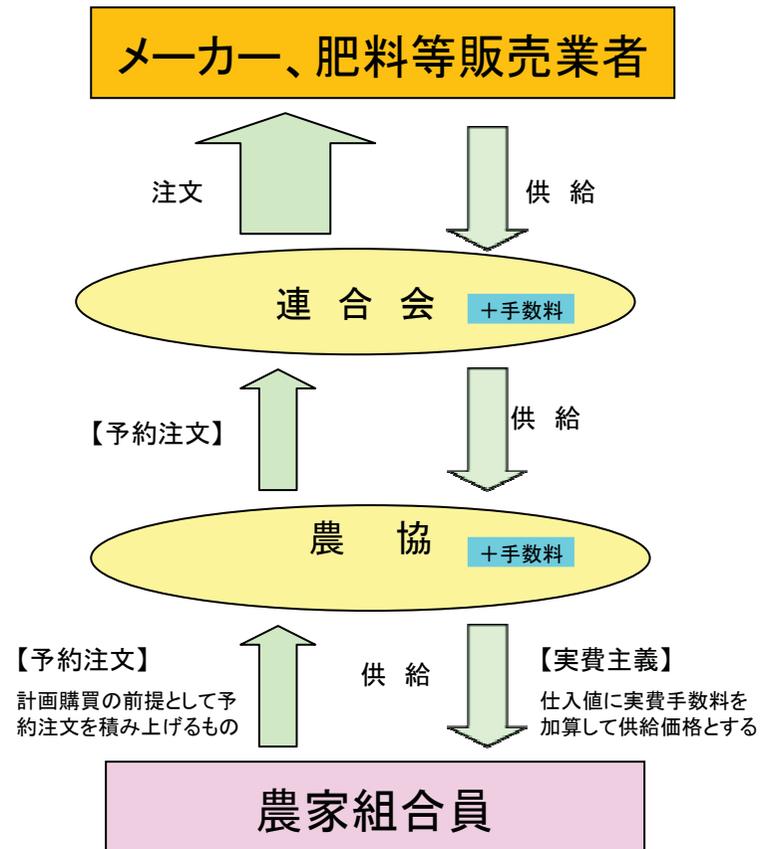
◆従来の経済事業運営の基本的考え方

- 従来農協の経済事業(農業関係)は、比較的均質で小規模な農業者が地域の大多数を占めるという構造を前提として、これらの農業者の生産以外の分野(生産資材の供給、農産物の流通等)をまとめて実施することによってメリットを出すことを目的に無条件委託販売、平均売り、共同計算等の基本的考え方により運営されてきた。

○ 販売事業の基本的考え方



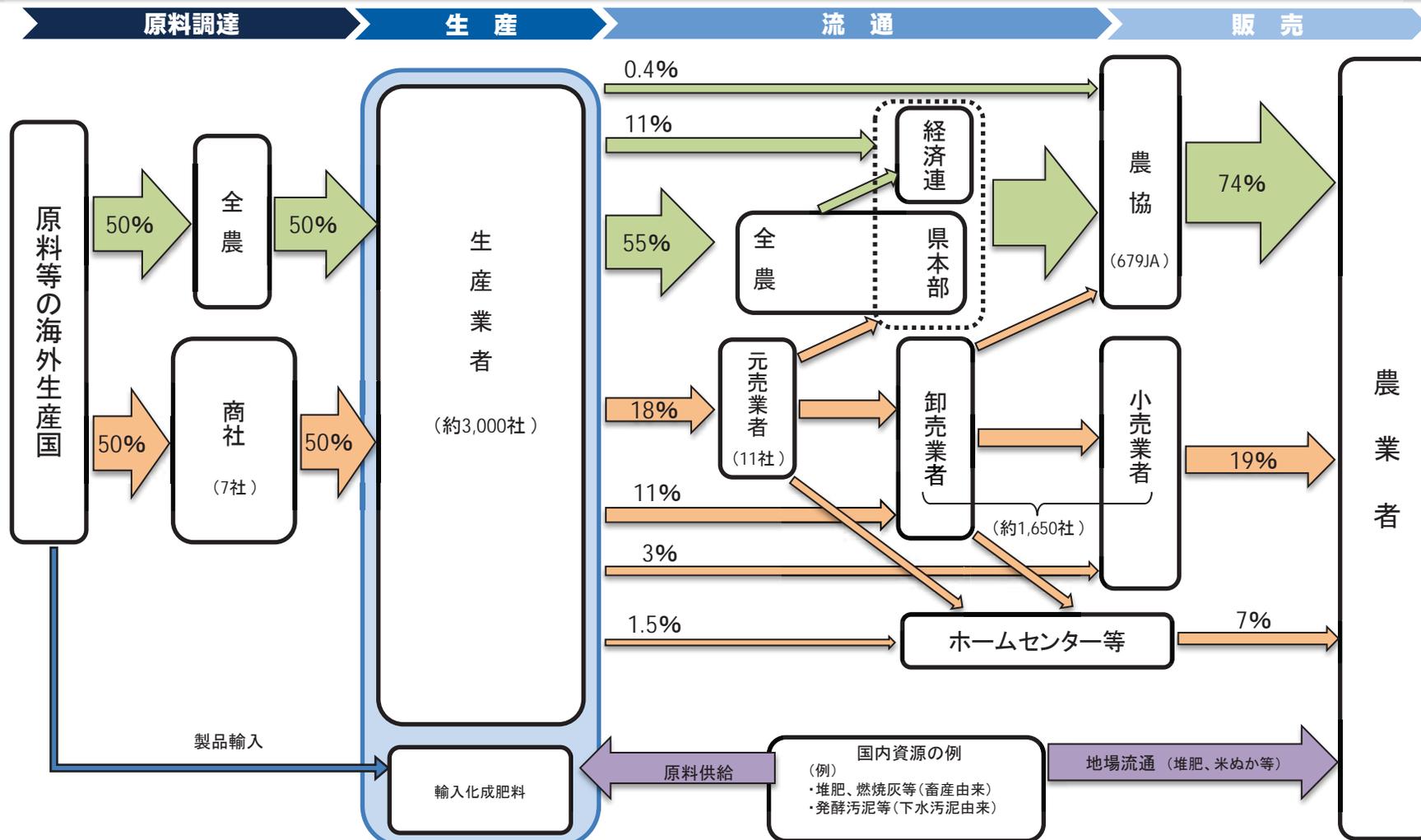
○ 購買事業の基本的考え方



生産資材の流通構造

■ 肥料の流通構造

- 肥料は、原料の多くを全農と商社が海外から調達して、国内約3,000社で製造されており、国内生産額は約4,000億円。生産業者からは、全農など系統に2/3、元売業者など商系に1/3の割合で出荷。
- 流通段階では、元売業者や卸売業者から、一部は農協やホームセンター等にも流通し、販売段階では、農協から約3/4、商系(資材店など小売業者、ホームセンター等)から1/4の割合で農業者に販売。

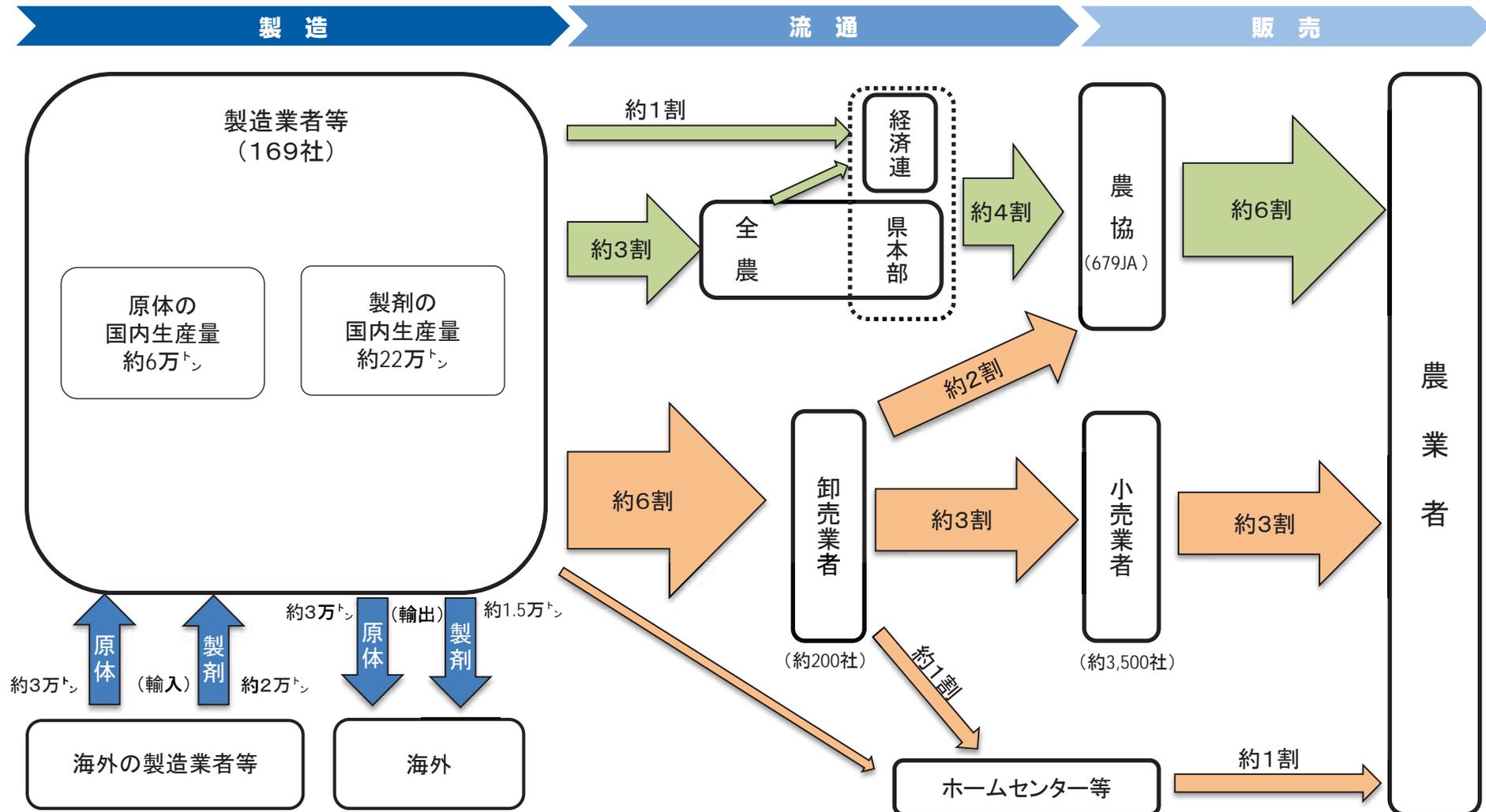


出典：未来投資会議 構造改革徹底推進会合「ローカルアベノミクスの深化」会合・規制改革推進会議 農業WG 合同会合（平成28年9月20日）農林水産省配布資料

生産資材の流通構造

■農薬の流通構造

- 農薬は、国内で生産される原体と海外からの原体輸入等により製剤が約24万トン出荷され、生産額は約4,000億円。製造業者からは、卸売業者など商系に6割、全農など系統に4割の割合で出荷。
- 流通段階では、卸売業者から、一部は農協やホームセンター等にも流通し、販売段階では、農協から約6割、商系（資材店など小売業者、ホームセンター等）から4割の割合で農業者に販売。
- 韓国では農薬の約4割はメーカーから卸を介さず直接小売店に出荷されており、流通構造がシンプルとなっている。

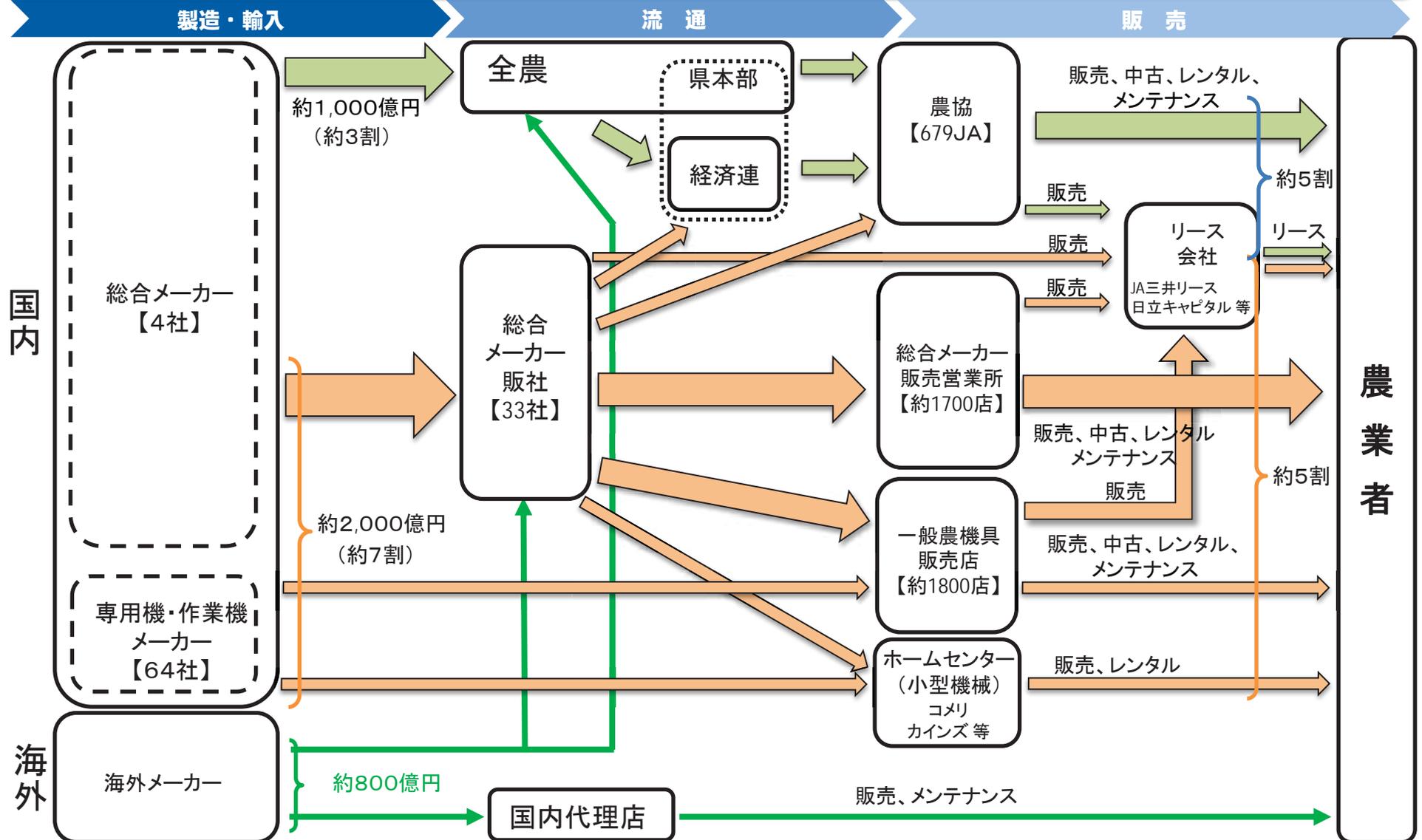


出典：未来投資会議 構造改革徹底推進会合「ローカルアベノミクスの深化」会合・規制改革推進会議 農業WG 合同会合（平成28年9月20日）農林水産省配布資料

生産資材の流通構造

■ 農業機械の流通構造

○ 販売段階では、商系(メーカー販売営業所、農機具店等)と農協から約1:1の割合で農業者に販売。

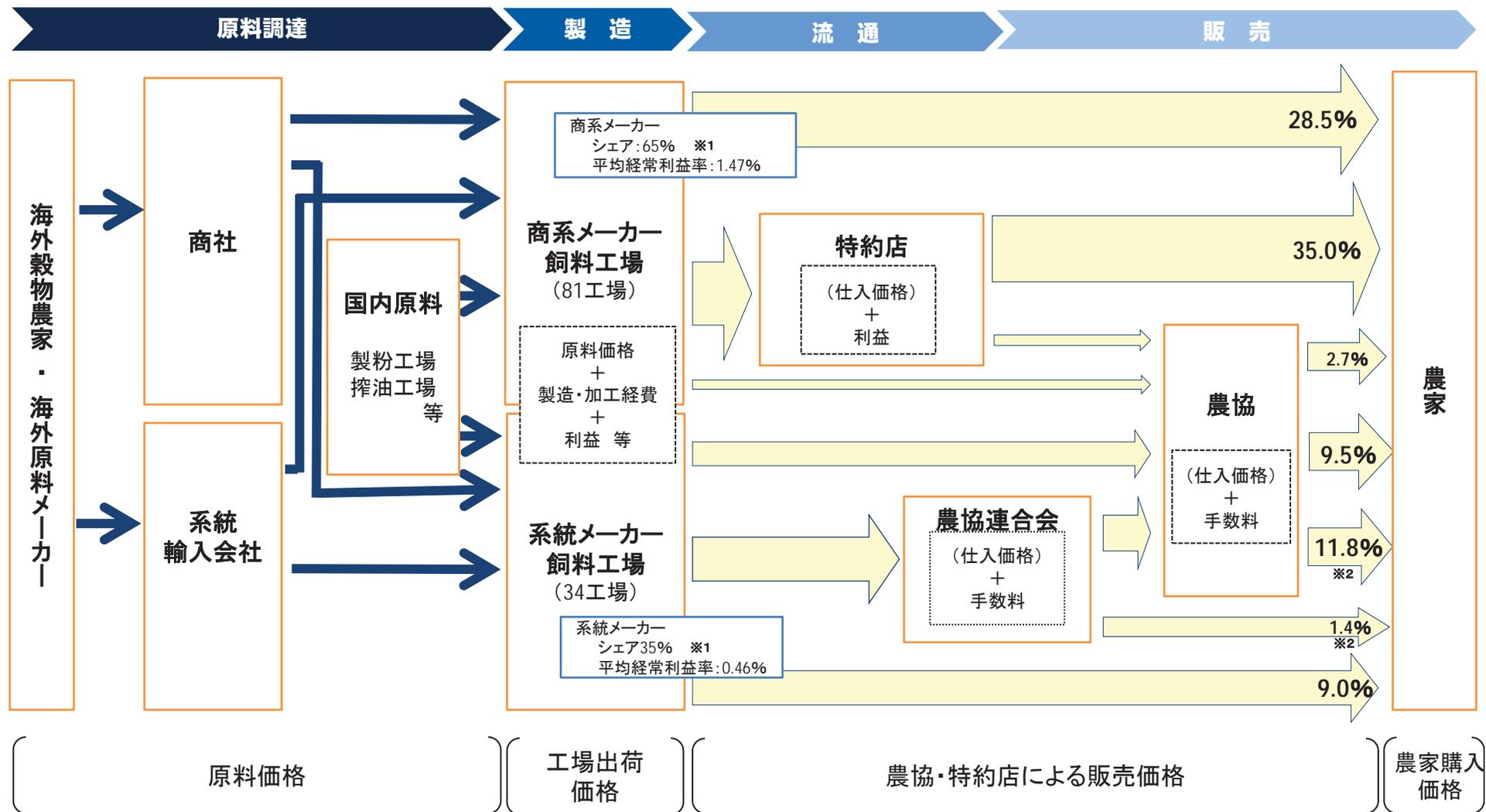


出典：未来投資会議 構造改革徹底推進会合「ローカルアベノミクスの深化」会合・規制改革推進会議 農業WG 合同会合（平成28年9月20日）農林水産省配布資料

生産資材の流通構造

■配合飼料の流通構造

○ 海外からの飼料穀物原料の調達、配合飼料の製造、販売が系列化されている。



出典: (公社)配合飼料供給安定機構「配合飼料産業調査」
 ※1: 配合飼料価格安定制度における契約数量ベースのシェア。
 ※2: 一部商系メーカーからの流通を含む。
 ※3: その他、試験場、農業高校等又は同業他社等への販売が2.2%ある。

出典: 未来投資会議 構造改革徹底推進会合「ローカルアベノミクスの深化」会合・
 規制改革推進会議 農業WG 合同会合 (平成28年9月20日) 農林水産省配布資料